

dialogue-scape

- 自然豊かなキャンパスを活かした、多様な対話が生まれる風景 -

一人で土に触れながら、ふと聞こえる鳥や虫の声に立ち止まる。

隣の畑やデッキでは誰かが笑い、遠くには静かに本を読む人の姿。

この場所は、自分と向き合い、他者とつながり、自然に抱かれることでそれぞれの対話が生まれる場
人と自然、個と集いのあいだを、やわらかに行き来できる庭。多様な「対話」が生まれる新しい風景となります。

Landscape Design Concept

本計画では、自然豊かなキャンパスの中で特徴的な場所と風景を「dialogue-scape」として再定義しています。

自然を単なる背景として扱うのではなく、思考や関係性を育むフィールドとして捉え直し、自然・自分自身・他者との対話が重なり合う場を構想しています。

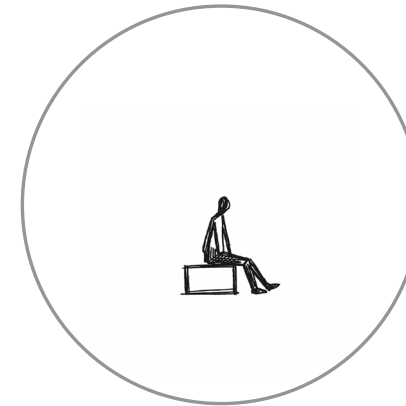
緑や動植物、光、風といった自然の気配に身体が呼応し、内なる声に耳を澄ます時間と、互いの存在を認め合う交流がゆるやかに共存します。新たな気づきや思考のきっかけが生まれ続ける場として、フォレストガーデンが育っていくことを目指しています。

3 types of dialogue



自然との対話

光、風、木々、虫、鳥、土など
自然の気配と身体が静かに結びつく。



自分自身との対話

自然の中で、内なる声に耳をすませ
自分自身を静かに見つめ直す。



他者との対話

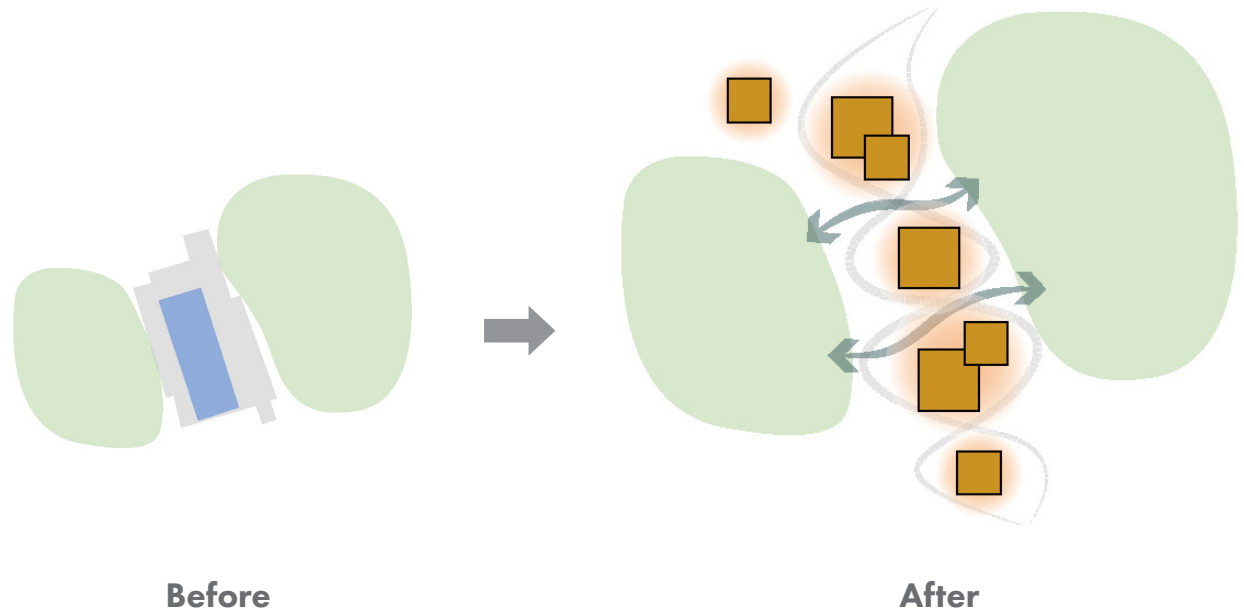
緑に囲まれた屋外空間での対話は
互いの存在を認め合う時間となる。

Design Gesture Diagram

敷地中央の重要なエリアにウッドデッキを点在配置させることで、人が自然に立ち止まり滞留する場を創出しています。

これまでブルーシートに覆われた肥料置き場として使われていた空間を再編し、動線を整理しながら東西のファームを緩やかにつなぐ結節点へと更新しました。

視線や言葉、活動が交差する場としてフォレストガーデンの中心を形成し、人の流れと居場所を生み出します。最小限の操作によって風景の使い方そのものを変えていくことを意図しています。



Proposed Image

提案するフォレストガーデンでは、自然豊かなキャンパスの中で、農の営みと日常の滞在が重なり合う、自由な使い方が可能な屋外空間を目指しています。

デッキは休憩や授業、ワークショップ、瞑想など多様な活動の場となり、訪れる人それぞれのリズムで時間が流れます。自然は単なる背景ではなく、関係性を育む主体として存在し、人と自然、人と他者、そして自分自身との対話がゆるやかに重なっていきます。

キャンパスの自然を活かしながら、様々な対話が生まれる開かれたキャンパスの風景となることを目指しています。

